４

**３**

２

１

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | **課題となる領域等** | **年間指導計画** | **単元指導計画** |  | **一単位時間の授業計画**  （学習集団を意識した毎日の授業づくり） |
| 第一学年 | 【領域：**物質**】  （観点：思考・判断・表現）  既習事項との関連  ・物のとけ方  【領域：**生命・地球**】  （観点：知識・技能）  既習事項との関連  ・動物のからだのつくりとはたらき  ・植物のつくりとはたらき  ・大地のつくりと変化 | ①　いろいろな生物とその  共通点（４月～６月）  ②　身のまわりの物質  （７月～１０月）  ③　生きている地球  （１月～３月） | ・身のまわりの物質について観察、実験などを行い、物質の性質や物のとけ方の規則性を見い出して表現できるようにさせる。  ・身近な生物について観察、実験などを行い、いろいろな生物の共通点や相違点を見い出すとともに、生物を分類するための観点や基準を見い出し表現させる。 | ・観察や実験の技能の更なる定着を図るために、その実験操作の意味を考え、自分から進んで操作を行うことがでるように繰り返し取り組ませる。  ・基本的な用語の確認をすばやく行い、応用問題や計算問題演習の時間を確保する。  ・学習内容の定着をはかるため、授業内の振り返りだけで なく、単元ごとの振り返りを充実させる。 |
| 第二学年 | 【領域：**地球**】  （観点：知識・技能）  既習事項との関連  ・火山  【領域：**物質・エネルギー**】  （観点：思考・判断・表現）  既習事項との関連  ・水溶液の性質  ・光の性質  ・音の性質 | 1. 化学変化と原子・分子（４月～９月） 2. 地球の大気と天気の変化   （１０月・１１月）   1. 電流の性質とその利用   （１２月～３月） | ・濃度や密度、圧力などの計算問題において、生徒間で基礎的な計算力に差がみられるため、個に応じた指導に努める。  ・実験レポートの作成を通して、既習の知識を活用して科学的に考察する力と、文章で論理的に説明する力をつけさせる。  ・小テストや追試テストを実施し、用語や物質の性質、実験方法などの基礎的な知識を定着させる。 | ・小数や分数の計算に慣れるための演習時間を確保するとともに、入試問題などの発展的な問題にも取り組ませる。  ・実験・観察の結果や資料から考察をまとめる際に、既習の知識と比較し、関連付けて考えるように指導する。また、ワークシートを用いて、段階的に穴埋めから始め、最終的には自由記述でも書けるようさせる。  ・定着率が低い単元では、小テストや復習テストを実施する。 |
| 第三学年 | 【領域：**物質**】  （観点：思考・判断・表現）  既習事項との関連  ・化学変化と物質の質量  【領域：**地球**】  （観点：思考・判断・表現）  既習事項との関連  ・気象の観測  ・前線の通過と天気の変化  ・日本の気象 | 1. 化学変化とイオン   　　（５月・６月）   1. 宇宙を観る   　　（１０月・１１月） | ・実験や観察を通して実験器具の使い方や、観察・実験の技能の定着を図る。  ・実験結果の表やグラフ等の資料から分かることを読み取らせる活動を設定する。  ・用語や物質の性質、実験方法などの基礎的な知識を定着させる。  ・天体のモデル実験などを通して、天体の日周運動と年周運動について、各方位の天体の動きを視覚的に捉えさせる。 | ・観察・実験の技能の定着を図るために、操作や手順の意味を考えさせ、目的をもって活動させる。  ・計算に慣れるための演習時間を確保し、繰り返し練習を行わせる。  ・既習事項を適時復習しながら指導を進め、定着率が低い単元では、小テストや復習テストを繰り返し実施する。 |

**授業改善プラン**

**目黒区立第八中学校　理科　授業改善プラン**